

公表 事業所における自己評価総括表

公表:令和6年1月31日

○事業所名	秦野市児童発達新事業 たんぼぼ教室		
○保護者評価実施期間	令和6年10月 7日 ~ 令和6年10月25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	令和6年10月 7日 ~ 令和6年10月25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月30日		

○分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている。 ・職員の資質の向上を図るために、事業所見学や研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の他にアンケートを活用し職員の意見を療育や業務改善に取り組んでいる。たとえば、意思決定支援の取り組みのアンケートを取り、日頃からの現状を整理して、再認識した。また、個別支援計画作成や保護者面談実施後にアンケートを取り課題を明確にし会議にて改善案を検討している。 ・職員の希望する関係機関への見学実施(10回)外部研修(8回)参加が、今回の高評価に反映されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの入園・入学等のライフステージの切り替えを見据えて、子どもの意思形成支援・意思表明支援・意思決定支援を図ります。 ・研修は、特に見学だけではなく、その後の意見交換会や事例検討研修会では専門機関からの助言や職員交流等ができました。今後も双方向の意見交換ができる場を活用し職員の資質向上に努めます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。 ・母子通園の為、日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の経験年数・専門性は、主に2～5年目の職員が多く違いがある。各職員はクラス単位で話し合い、考え、利用児や保護者にチームとして取り組んでいる。チーム力を活用し、組織として均衡のとれた専門性の質の確保を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスリーダーの役割の明確化も含め各職員の役割を明確にしチーム力を活かした支援を図ります。 ・家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修(心理勉強会等)の機会や情報提供をさらに取り組みます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・併行利用や移行に向けた支援など、インクルージョン推進の観点から支援を行っています。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園等との間で、支援内容の情報共有と相互理解を図っている。 ・就学時の移行の際には、小学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会(幼稚園、こども園、教育委員会、障害福祉課)を実施している。情報を共有することにより療育の充実と適切な移行支援を図っている。また、顔の見える関係性を大切にしている。 ・卒園児の保護者懇談会や卒園した保護者によるOG講話会を毎年開催し保護者支援や療育支援の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、卒園児の数年後の姿や関係機関の情報を得ることにより、保護者はもちろん、職員も日々を振り返る機会とし療育支援の充実に努めます。 ・引き続き、ペアレンター的な保護者を募り、その後も継続して退園した保護者との連携を図ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもに対しアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。 ・子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査結果、日常生活動作表、保護者との面談記録、Dr相談時記録等及び行動観察記録をもとに、モニタリングし計画書を作成しているが、すべての子どもに行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントが出来るように職員へ周知し、理解を深め取り組み始める。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画を策定し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 ・子どもの安全確保に関して、家族との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡先名簿を作成し連絡を取れる様にしているが、各マニュアルがひとまとまりになっておらず更新がなされていない現状がある。今年度半ばに安全計画書としてひとまとまりにして閲覧できるようにしたが、保護者および職員へ周知が不十分な状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画策定に伴い各マニュアルの担当を決め、周知と訓練の実施と更新を行う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・併行通園している児童は、こども園、幼稚園等で訓練を行っていることから、4歳児5歳児クラスは訓練を実施していなかった。令和6年度より、避難訓練と防犯訓練を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスの定期的な訓練の実施を図る。